

公開シンポジウム

# 阪神・淡路大震災30年と次世代の多文化共生 ～問われる日本の教育と若者の未来～

6,434人が犠牲となった阪神・淡路大震災から、2025年1月17日で30年を迎える。多くの被災外国人への支援活動や互いの助け合いから「多文化共生」という言葉が全国に広まった。

本シンポジウムでは、外国ルーツの若者たちの進路、特に大学進学に焦点を当て、この30年間で何を達成し、何がまだ大きな課題であるのかを、共に考えてみたい。

**2025年1月25日(土)**  
**13:00～17:30**

## 対面 + オンライン 関西外国語大学

中宮キャンパス・マルチメディアホール

**参加無料 事前申込**

申込方法: QRコードから  
申込締切: 1月23日(木)  
オンラインは当日まで



<https://www.ocans.jp/kansaignidai/schedule?fid=R8C6tqGZ>

## アクセス

大阪府枚方市  
中宮東之町16-1

京阪電車 枚方市駅  
京阪バス北3番・  
北4番のりば(約8分)  
「関西外大  
中宮キャンパス」  
下車すぐ



## プログラム

開会挨拶	竹沢泰子(日本学術会議会員/関西外国語大学)
<b>第一部 映画上映 (13:00～14:10)</b> 司会 吉村真子(日本学術会議連携会員/法政大学)	
上映	「レモン」(制作 松原ルマ 8分) 「はざまー母語のための場をさがして」(監督 朴基浩 38分) 質疑応答
休憩(20分)	
<b>第二部 シンポジウム (14:30～17:30)</b> 司会 チャクル・ムラット(関西外国語大学短期大学部)	
趣旨説明	竹沢泰子
講演	教育の視点で「多文化共生」の30年を振り返る～たかとりコミュニティセンターの活動から～ 吉富志津代(武庫川女子大学)
講演	多文化共生を、自分の経験から振り返る 松原 ルマ ユリ アキズキ(広告関連会社員)
講演	外国ルーツの若者にとっての大学進学～母語教室をめぐる映像制作から見てきたもの～ 朴基浩(映像作家/NPO法人 IKUNO・多文化ふらっと)
講演	多文化共生の対象外とされる子どもたち～社会統合を高等教育の現場から考える～ 稲葉奈々子(日本学術会議連携会員/上智大学)
休憩(15分)	
全体討論	コメント 清水睦美(日本女子大学) 質疑応答 司会 竹沢泰子
閉会	

# プロフィール



## 吉富志津代 (よしとみ しづよ)

武庫川女子大学 国際センター長／心理・社会福祉学部教授。  
南米の領事館秘書を経て、阪神・淡路大震災後は、外国人救援ネットやコミュニティ放送局FMわい  
わいの設立に参加。近著に『多様な学びの場をつくる—外国につながる学習者たちの教育から考える』(編著, 明石書店)



## 松原 ルマ ユリアキズキ (まつばら るま ゆり あきずき)

ブラジル サンパウロ出身。2006年自身の日系ブラジル人3世としてのルーツをテーマにした映像作  
品「レモン」が「東京ビデオフェスティバル」で優秀作品賞に入選。  
在住外国人支援のNPOで同ルーツの教育支援に携わりながら、現在広告関連の企業に勤務。



## 朴基浩 (ぱく きほ)

映像作家。NPO法人クロスベイス理事、NPO法人IKUNO・多文化ふらっとアドバイザー。定時制。通  
信制高校生の直面する「進路未決定」の課題を知り、NPO法人D×Pを設立。定時制高校等での  
キャリア教育プログラムをてがける。「なぜ生理はタブー視されるのか」映画祭入賞。



## 稲葉奈々子 (いなば ななこ)

上智大学教授。国際社会学が専門。移住者と連帯する全国ネットワークや反貧困ネットワークなど  
でも活動、「仮放免高校生奨学金プロジェクト」の運営に関わっている。  
『入管を問う—現代日本における移民の収容と抵抗』(編著、人文書院2023年)



## 清水睦美 (しみず むつみ)

日本女子大学教授。専門は学校臨床学、教育社会学。移民の子どもと災害を対象として学校教育  
とヴァルネラビリティの関係を検討。主著『震災と学校のエスノグラフィー』  
(共著2020年、勁草書房)、『日本社会の移民第二世代』(共著2021年、明石書店)

# 司会・趣旨説明等

吉村真子

法政大学社会学部教授

チャクル・ムラット

日本学術会議連携会員 多文化共生分科会副委員長

竹沢泰子

関西外国語大学短期大学部准教授

関西外国語大学国際文化研究所長 京都大学名誉教授

日本学術会議会員 多文化共生分科会委員長

